

業務連絡

2022年2月1日
JR東海労新幹線関西地本
編集 業務部 No.15

2022年2月1日、新大阪日之出会議室において「申」第16号について会社は団体交渉の開催を拒否し、会社側幹事から口頭による回答がありました。

「列車内における異常事態発生」に関する申し入れ

最近、各鉄道会社においてコロナウイルスによる緊急事態宣言解除後、輸送量が増えつつある中、走行中の列車内における放火事件や殺傷事件などの異常な事態が多発している。10月31日に発生した京王線放火殺傷事件は社会的に大きな衝撃を与えた。また、東海道新幹線車内においても11月3日、のぞみ201号で乗客の不審行為が発生。11月8日、九州新幹線さくら401号における放火未遂が発生。さらに11月9日、これもまた東海道新幹線のぞみ11号において旅客トラブルが発生し、異常な事態が連続して発生している。この異常事態に対して、乗客及び乗務員の安全を確保するために、鉄道会社としてどのような対策を講じるのかが問われている。

よって、下記の通り申し入れるので早急に団体交渉を開催し、誠意ある回答をすること。

記

1. 最近発生した列車内における異常事態の詳細を明らかにすること。

【会社回答】

貴側の申し入れの主旨が、判然としないが、2021年11月3日水曜日8時50分頃、米原～京都間走行中の9201A（X33編成）において旅客対応が発生した。この関係で当該列車は、京都駅を5分遅発した。また、2021年11月9日火曜日7時39分頃、品川～新横浜間走行中の11A（G7編成）において、旅客対応が発生し、浜松駅で臨時停車を実施した。この関係で当該列車は、新富士駅を48分遅通した。

2. この連続して発生した異常事態に対して、会社としてどのように認識しているか明らかにすること。

【会社回答】

当社はこれまでも様々なセキュリティ対策を講じており、安全確保のための取り組

みを行っている。今後も警察と連携しながら必要な取り組みを行っていく。

3. かかる事態に対して会社としての具体的な対応を明らかにすること。

【会社回答】

鉄道事業者として鉄道施設内の安全を保つために最大限の努力をしていく。
当社はこれまでも様々なセキュリティ対策を講じており、安全確保のための取り組みを行っている。今後も警察と連携しながら必要な取り組みを行っていく。

4. 乗客及び乗務員の安全確保のため、「安全最優先」の観点から車掌を3人乗務に戻すこと。

【会社回答】

そのような考えはない。
当社はこれまでも様々なセキュリティ対策を講じており、安全確保のための取り組みを行っている。今後も警察と連携しながら必要な取り組みを行っていく。

以上

【若干のやり取り】

(組合) 1項目目で「異常事態の詳細を明らかにすること」としているのに回答では、日時、列車番号、編成、遅れ時分のみで理由が旅客対応だけでは何ら分からない。回答になっていない。

(会社) お客様個人に関わる問題で回答は差し控えたい。
いづれにしても警察が出動したことだ。

(組合) 乗務員に知らせないのは、何が起きているのか不安になる。
そのためにも周知すること。情報を共有すること。

(会社) 共有してもらうことは意見として承知した。

(組合) 3項目目で「具体的な対応を明らかにすること」としているのに、回答が「最大限の努力をしていく」では何ら具体性がない。明確な回答は、具体的にハード面をこうして行く、ソフト面をこうして行くといった具体的な対策だ。

(会社) 会社としては、これまでも防犯対策についてはやってきたし、業務委員会でも議論してきた。ハード面だけでなしに、訓練等についても既に議論したという認識だった。

今後、パーサー (SG) が1名減になり、今まで以上に

セキュリティ確保が大変になってきます。

会社が言う「安全最優先」というなら、是非とも車掌を

3人乗務に戻すことを強く訴えます！